

「和歌山県学校教育 ICT グランドデザイン（案）」に係る県民意見募集の概要

1 県民意見募集の概要

(1) 意見の募集期間：令和5年12月12日（火）15時から令和6年1月11日（木）12時まで

(2) 提出された意見21件（郵送0件、ファクシミリ0件、電子メール21件）

2 提出された意見の概要とこれに対する県教育委員会の考え方

※1つの意見を分けて記載している場合や同内容の意見を集約している場合があります。

	意見の概要	県教育委員会の考え方
1	教員にもタブレット端末を配布する必要性があると考えます。	教員には、持ち運びができる端末を用意しています。今後、境界分離型ネットワークからのアクセス認証をベースとしたゼロトラストに移行することで、教員用端末が校務用だけでなく指導者用としても安心して活用できる環境構築に取り組んでまいります。
2	チャット GPT とアカウントを連携させ、積極的な利用を求めていく必要があると考えます。	ChatGPT に代表される生成 AI の利用については、県立学校に対し、文部科学省のガイドラインを基に、「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」について通知を行っており、今後、その安全性を含め、授業での活用等の研究に取り組んでまいります。
3	【IC ² T】は、それぞれの単語に単なる名詞だけで無く、複数の動詞的意味を含んでいることから、新しい概念をアピールする意味で、【.】（ドット）を付けて【IC ² .T】（アイダブルシー ドット ティ）にするのが良いと思います。コンセプトイメージの図については、生成 AI を追加すればさらに良くなると思います。	ご指摘のとおり、【IC ² T】は、複数の意味合いを込めており、新しい概念としての協議を重ねた結果となっています。 コンセプトイメージの図については、ご意見のとおり、生成 AI を加筆します。
4	プログラミング教育は、担任が教科間連携を前提に授業を組み立てることが大切であるため、プログラミング教育支援員は、教員経験のある人材が望ましいと思います。 だれでも簡単にできるプログラミング授業のテキストの作成により、教育	プログラミング教育については、令和元年より「きのくに ICT 教育」において、体系表、小学校・中学校・高等学校別の学習指導案集を作成し、プログラミング教育支援員を派遣するなど推進しています。令和5年度事業においては、学習指導案のアップデートを行うとともに、「4

	意見の概要	県教育委員会の考え方
	自身のスキルアップ及び支援が必要だと思えます。	具体的な施策（１）児童生徒の資質・能力の育成及び教職員の指導力の向上 ア 情報教育の充実」に記載のとおり取り組んでまいります。
5	教職員の ICT 活用指導力の向上には、学校長のリーダーシップが必要不可欠であるため、学校長が ICT 教育の重要性を認識し、自身のスキルアップを図ることが重要だと考えます。	ご指摘のとおり、管理職のリーダーシップは重要であると考えており、「４ 具体的な施策（３）持続可能な組織体制の整備と教育 DX の推進 ア 持続可能な組織体制の整備及び イ 教育 DX を推進する組織の確立と充実」に記載のとおり取り組んでまいります。
6	県域における統一したアカウントの導入には賛成ですが、単一のサービスに限定するのではなく、サービスを組み合わせた取組が必要だと考えます。	県域アカウントの導入については、利便性の高いサービスの導入を進めてまいります。児童・生徒・教職員の利用を単一のサービスに限定するものではありません。 児童・生徒・教職員が単一のサービスに依存することなく、複数のサービスを自ら選択して活用できる能力を身につけられるよう「４ 具体的な施策（１）児童生徒の資質・能力の育成及び教職員の指導力の向上」に記載のとおり取り組んでまいります。
7	（２）和歌山県の現状と課題 ア ICT を活用した教育に関わる「人」（イ）教職員に関することについて、文部科学省の調査項目は全国平均を下回っているが、ほぼ全国平均と考えられるため、「教員の ICT 活用指導能力は、全国と比較すると低い状態」という表現は適切ではないと考えます。	「全国と比較すると低い状態であり」から、「全国平均を下回る状態であり」という表現に変更します。
8	子どもに育むべき様々な力が「ICT を軸としたグランドデザインの実現により培われる面が大きい」との記述は過大評価であるとの印象を受けます。「対面指導とオンライン学習のそれぞれの長所を正しく理解し、対面指導が重要な場面も多いのではないのでしょうか。	「ICT を軸としたグランドデザインの実現」には、めざす姿の「児童生徒の資質・能力の育成及び教職員の指導力の向上」に記載のとおり、ご指摘いただいている「対面指導とオンライン学習のそれぞれの長所を正しく理解し、児童生徒のニーズや場面に応じて最適な学びに向けた指導」を行うことも含まれています。
9	「IC ² T」の説明において「失敗を恐れず挑戦」は、誰の何に対する挑戦をイ	教育に関わる全ての人々が、新しいことに挑戦することをイメージして

	意見の概要	県教育委員会の考え方
	メージしているのでしょうか。	います。
10	「12年間を通した個人の学習履歴の作成」について、「周囲には知られていない」と思えることで力を発揮できる子供がいることを踏まえて活用を検討するべきだと考えます。	個人の学習履歴は、個人情報であり、本人の学習や担当教員の指導に役立てられる情報資産となるため、教育情報セキュリティポリシーに従った取扱いを行い、適切な運用を進めてまいります。
11	「BYODの導入」については、国の財政措置が実現しなかった場合においても、保護者負担軽減のために現在と同じように県よりの貸与とされることを望みます。	「4 具体的な施策 (2) いつでもどこでもつながる安全・安心な ICT 環境の構築 イ ICT 学習環境の充実」に記載のとおり、取り組んでまいります。
12	「民間企業との連携」について、営利を目的とする民間企業との連携は、情報漏洩等への心配から安易に進めないようにすべきだと考えます。	民間企業や高等教育機関等との連携は、内容を十分精査し、教育情報セキュリティポリシーに従い、取組を進めてまいります。
13	「ほぼ毎日活用している学校の割合」「毎日持ち帰っている学校の割合」を2027年度の目標を100%にしていますが、どちらも目標が目的化し、教育活動に悪影響を及ぼすことが考えられるため、目標として不適切ではないかと考えます。	策定の趣旨に記載のデジタル化(注釈2)にあるように、デジタル化には3段階あり、現在は「デジタイゼーション(紙などのアナログ情報をデジタル化する段階)」のステージにあると認識しているため、まずは機器にふれること、使うことが重要と考え、文部科学省が毎年調査統計を行っている項目を目標としています。 ご指摘のとおり、ICT機器の活用や持ち帰りは、あくまで手段であり、目的化してはいけませんので、基本方針の一つである「児童生徒の資質・能力の育成及び教職員の指導力の向上」を実現するための取組を推進してまいります。
14	健康面への具体的な取組について教えてください。	健康面への影響については「4 具体的な施策 (1) 児童生徒の資質・能力の育成及び教職員の指導力の向上 イ 健康面への配慮」に記載のとおり、取り組んでまいります。
15	現在のICT環境は、ゼロトラストに対応しておらず、業務を行う場所が限定されたり、ペーパーレス化が実現できなかつたりするなど、ICTを十分に活	県民の皆様の期待に応えられるよう、教育に関わる全ての人々と、【IC ² Tをあたりまえに】のコンセプトを共有し、めざす姿を実現する

	意見の概要	県教育委員会の考え方
	用できていないため、グランドデザイン案で提示されている”ICT 環境の構築”が早急に必要だと感じています。	ための取組を推進してまいります。
16	学校の多忙かが深刻化している中、教員の研修については、負担とらないことを求めます。	
17	教員の負担軽減につながる「入学試験手続き等のデジタル化」はぜひ推進していただきたいと考えます。	
18	「持続可能な組織体制の整備」に記載されているように、特定の職員に頼らなくても運営できる支援体制の構築をぜひ進めるよう望みます。	
19	全ての教室で快適で利用できるインターネット環境の整備をお願いします。	

3 本県教育に対する意見・要望

※ご意見ご要望は、本計画の参考とさせていただいたほか、今後、本県の教育施策を進めていく上での参考とさせていただきます。

1	生徒のタブレット PC を開きながら、学習するスペースが無いため、学習机を変更、もしくは予備机を追加する等、机のサイズを ICT 活用に適したものに対応してほしい。
2	世界へ羽ばたく子供たちを育てるためには、コンピューテーショナルシンキングを身につけさせ、情報端末を「自分の体の一部のように」扱えるスキルを身につけさせることが重要だと考えています。和歌山県の今後の発展のため、主体的、対話的で深い学びの実現を目指し、県民の力を集結し、和歌山県を全国でもトップレベルの ICT 先進県にするための努力をしたいと思えます。